

### 03 前山川・徳尾川

**保全** 今回の調査で、希少な魚類が確認された。

**課題** 横断工作物が高密度で存在する。とくに比高の高いものが多い。上流域に至っても、水辺に自然林・二次林が接する区間がほとんどみられない。流部では、河床に大型糸状緑藻が優占的に繁茂していた。底生動物の特定種・出現頻度の低い種は少ない。



### 01 市の貝川

**課題** 三面コンクリート張りで、河川形態が単調。

### 02 竹田川下流部

**保全** 蛇行部が残り、大きな面積の淵が認められる。ワンドや中州がみられ水際は比較的变化に富む。水辺に自然林・二次林が接する区間が多い。竹田川水系のなかでは、比較的すぐれた河川形態を有する。



**課題** 比高の高い取水堰が連続しており、比較的広い面積を湛水域が占める。オオクチバスが分布を拡大しつつある。

### 04 竹田川中流部

**課題** 竹田川の中では、もっとも人工改変率が高い区間。残された自然地形の面積が少ない。

### 05 鴨庄川

**課題** 横断工作物が高密度で存在し、とくに比高の高いものが多い。下流部では、岩盤の露出が顕著なうえに、河床に大型糸状緑藻が優占的に繁茂していた。底生動物の種数が周辺河川と比較して顕著に少ない。

### 06 竹田川中流部

**課題** 取水による減水が顕著で、夏季最高水温は、下流より高い(33℃以上)。過去にあった淵が“消失した”との情報があり(聞き調査)、河川形態の単調化も進んでいると推測される。浮石率は上下流の地点と比較して顕著に低く、河床に大型糸状緑藻の繁茂が認められた。生動物の種数が上下流の地点と比較して顕著に少ない。

### 07 美和川

**課題** 魚道の無い横断工作物が高密度で存在する。河床に大型糸状緑藻が優占的に繁茂していた。ブルーギルの侵入が確認された。

### 08 日ヶ奥川

**保全** オオサンショウウオの生息情報、ならびに、ゲンジボタルが多産するとの情報が得られた(聞き調査)。



**課題** 全域改修済みで、河川形態が単調。減水区間。

### 09 黒井川

**保全** 水系内で、もっとも緩勾配の河川。緩流性希少種の生息場所となっている。魚類の種数は、水系内でもっとも多い。

**課題** 低水護岸率が顕著に高い区間がある。河床に大型糸状緑藻の繁茂が認められた。強い濁りが観察された。災害復旧工事により、重要種の生息域が改修された。



### 10 竹田川上流

**課題** 取水堰堤が多く、とくに下流側では時期によっては減水する。松森付近では、過去にあった淵の消失情報があり(聞き調査)、河川形態の単調化が進行しているようである。三井庄川合流付近では、露岩が目立つ。

### 11 三井庄川

**課題** 横断工作物の密度が顕著に高い。河道のショートカットにより、河川形態が単調な区間がある。

### 12 竹田川最上流部・滝の尻川

**保全** 竹田川水系内では、上流域の環境がみられる区間で、水辺に自然林・二次林が接する区間が比較的多い。底生動物の確認種数が水系内でもっとも多い。



**課題** 横断工作物の密度が顕著に高い。一部が三面コンクリート張りになっており、河川形態が単調となっている。露岩が顕著な箇所がある。

#### 全体区分

各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

#### 魚類・底生動物の現地調査地点

● 調査地点

#### 回遊種の確認上限

▼▼ 近年の確認上限

▼▼ 過去の確認上限

#### 植生から見た流程区分

ツルヨシネコヤナギ型

移行帯

オギーツルヨシ型

感潮域

#### 横断工作物の確認位置(水面比高0.2m以上)

○ 魚道あり

○ 魚道なし

#### 聞き調査による名前のある淵の現状

● 無くなった

● 浅くなった/狭くなった

● 変わらない

● 不明

#### 予察調査による河川環境の記録

● 課題が見つかった箇所